

- 派遣先大学：ミュンヘン工科大学（TUM）
- 留学期間（yyyy/mm/dd）：2024/10/03 - 2025/03/05
- 東京大学での所属：工学部計数工学科システム情報工学コース
- 留学開始時の学年：学部 3 年

1 留学準備期

1.1 留学を決断するまでの経緯

まず、英語、第二外国語を日常的に用いる環境、特に後者に囲まれる機会に以前から関心を持っており、留学という形態をとるかに関わらず、ドイツ語圏への渡航、可能であればドイツへの渡航を実現させたいと考えていたということが、留学をするという決断、および渡航先の選択に大きな影響を与えた要因の一つである。上に述べたような渡航の機会として特に、本プログラムのような提携校の学生として参加が可能な中長期のプログラムへの参加を希望したのは、一時滞在にとどまらず、現地において学生という社会的身分を持ちながら暮らしを営む経験をすることにより日本、特に大学生活において自身をとりまく状況を客観視したいと考えたことと、留学前後のマインドセットの変容に対する期待の二点による。

留学先で得た経験、知見及び見識が大学での研究活動など留学後の自身のキャリア形成上の糧になればという考えに基づき、留学を思い立った時点において可能な限り早く、かつ本学での履修計画に与える影響が直近において少ないだろうと思われた、学部 3 年秋学期でのプログラム参加を希望した。

1.2 渡航前から渡航直後時期における手続き

留学先への入学手続きおよび本学での所属学部における手続きは、OICE 及び所属学科の教務室の担当の方々からのご説明に従って行った。

特にビザ取得の方法については、私が留学準備を行っていた当時以下の二通りが可能であった。

1. ドイツ連邦共和国大使館（または総領事館）で渡航前に申請を済ませる
2. 渡航後、住所登録が完了し次第オンライン申請を行う

前者の場合には日本出発の前、少なくとも1か月以上の余裕を持った日程で大使館の来館予約を取る必要があったが、オンライン上での予約システムが非常に混雑しているからか、自分が試した際には予約枠がすぐに埋まってしまうような様子が確認された。

一方で、交換留学に参加するためには必ずしも渡航前にビザを取得する必要は無く、例えば日本国籍を有する学生は渡航後の滞在許可申請が許可されており、私は最終的にこの手段を選んだ。同様の制度下で日本からドイツへ渡航した交換留学生は、私の知る限りでは渡航後にビザの申請を行っているケースが多いようである。しかしながら、担当の外国人局の手続きがひっ迫しているのか実際にビザを取得するのに申請から半年程度かかることは珍しくないようであり、確実にビザの取得にこぎつけられるとはいえない状況であった。私はオンライン申請以後手続きが滞り帰国までに仮ビザすら取得することが出来なかったが、オンラインでの申請直後にダウンロードが可能な申請事実の証明書によれば、申請から6か月間、外国人局が申請内容に決定を下すまでの間はその書類とパスポートを以て滞在許可なしでの滞在が合法扱いになるとのことであったので、帰国時の出国審査ではその証明書を見せると、一般的な方法ではないようだが出国の許可をもらうことが可能であった。もっとも、上記の話はあくまで私の留学当時、直行便に限った場合であるので、実際に自分が入手した書類を確認することが必要であると思われる。

医療関係・保険関係の準備についても、TUM から知らされる案内に従って準備をすれば基本的に問題がないが、大学からの案内と別的手段をとったものとしては、加入必須の健康保険について、閉鎖口座およびドイツの銀行口座の開設がセットになった民間の学生用パッケージを利用した点が挙げられる。パッケージにより保険、銀行口座の手続きや維持に対する手間が簡略化されるので、留学生の中である程度それを利用している人は多かったように感じる。

1.3 語学関係の準備

英語に関しては、東京大学でのプログラム応募の際にスコアが必要になるので TOEFL iBT を受験しておいた。

ドイツ語に関しては、渡航前の半年程度ネイティブとの会話練習を行い、学習を進めた。当初はドイツ語の授業科目を履修する可能性があると考えており、非公認の認定試験結果のみ所有しているといった状況下であった私は、事情を説明した上で教養学部前期課程に所属している際にお世話になった先生に能力証明の作成をお願いした。ドイツ語の公認検定試験はどの試験を受けるにせよ開催日程が限られている場合が多いため、能力証明の用意を考えるならば一般にスケジュールには注意が必要であると考えられる。

1.4 奨学金の受給

- 名称： JASSO 奨学金（交換留学用＜協定派遣＞、給付型）
- 月額： 80,000 円（最終月のみ、30,000 円の追加受給あり）
- 受給金額についての補足等： 支給は半年のプログラムで 4 か月分
- 奨学金をどのように見つけたか： OICE の担当の方からのご紹介

2 留学期

2.1 履修科目／単位

- 授業科目：
 - Systems Theory and Modeling
 - Fundamentals of Artificial Intelligence
 - Data Networking
- 授業以外の活動で取り組んだもの：
 - TUMtandem** ネイティブと同等のレベルに運用可能な言語をパートナーと定期的に会って互いに教えあうプログラムが、大学の語学センター（Sprachenzentrum）でセメスターごとに提供されている。私はそのプログラムに応募し、日本語とドイツ語のタンデムを行った。
 - スポーツプログラム** ミュンヘンの大学に在学していると、ZHS という団体を通して TUM のキャンパス内外でスポーツコースを受講することが出来る。私はこちらにも応募し、週一回一時間程度体を動かす機会を得ていた。このプログラムでは、特に人気の高い種目に関しては応募受付の開始とともに枠が無くなるケースが多いということであったので、興味があるのであれば事前に受付開始日時を確認しておくが良い。
 - 東大授業科目の履修** 留学による留年をせずに学士課程を修了することを希望している旨を所属学科の先生に相談させていただき、遠隔での受講を調整可能な必修科目について、留学と並行して履修をさせていただけることになった。
- 週末や長期休暇の過ごし方：

授業期間中の週末は、平日の生活の延長のほか、友人と食事に出かけたり、市街の観光をしたりした。ホリデー前後の時期は大学が二週間程度休みになるため、近隣に旅行に出かけることもあった。

2.2 派遣先大学の環境について

- **設備：**

メインキャンパス、Garching キャンパス、Olympia キャンパスを使用していたが、いずれにも図書館及び学生食堂があり、特に学生食堂は東大のものに比べると比較的混雑回避可能である点では使いやすと考えられる。なお、Garching キャンパスにはキッチンカーやカフェスタンドも多く存在する。

- **サポート体制：**

所属の専攻ごとに事務関係の連絡先が伝えられるほか、私の所属していた専攻では、交換留学生からなるチャットグループや交換留学生向けの観光プログラム、メンターの紹介制度が用意されていた。

2.3 宿泊先

- **宿泊先の種類：**学生寮

- **どのように見つけたか：**

先方の大学に申請をした際に学生寮の希望調査が行われる。留学時期が近づくことと入寮の可否（いずれかの寮に所属できるかどうか）がまず知らされ、寮費を支払いが済んだ後、実際に住むことになる寮の場所、部屋のタイプなどの詳細を伝えられるという流れであった。

- **宿泊先の様子：**

学生寮によって大学へのアクセスはさまざまであり、シャワーやキッチンが共用であるか否かなども配属先に依存する。

交換留学生向けに提供される学生寮は部屋の大部分を交換留学生のために確保して提供しているので、どの寮に所属することになっても基本的には居住者の大半が交換留学生であるものと思われる。

私は最大規模の学生寮の部屋を割り当てられたということもあり、日本からの交換留学生も多いような場所であった。規模の大きい寮であるため共同利用の施設が充実しており、コインランドリーなど生活に必要な不可欠な設備から、寮生専用の自習室、寮生向けのイベントを開催する各種の部屋が備わっていたほか、他の寮での状況が不明であるが、寮に世話役の学生がおり、寮のチャットグループなどで随時相談をすることができる環境であった。

2.4 現地の生活

- **気候：**

以下はあくまで私の留学した年の状況であるが、ドイツに住んでいる現地の学生によると、少なくとも2月までは全体的に寒い時期が続くということである。まず10月の頭から急に冷え込みはじめ、東京で冬に着用するような上着を羽織る程度であった。本格的にダウンジャケットを着用するようになったのは11月ごろであり、1月までは連日0度前後程度の寒さだった。2月に入ると最高気温が10度近くになる日が出てきていた。

また、例年冬学期の時期に見られる特徴として、湿気が強いこと、曇りの日が多いことが挙げられる。私はビタミンのサプリメントを日本から持参して対応した。湿気に関しては、古い寮に住む人は特に、窓を開けて一日に2、3回数分換気を行うようにすると効果的だと思われる。

- **交通機関：**

Deutschlandticket という月額支払い制のサブスクリプションが運用されており、加入すると月額の支払いでドイツ国内の公共交通機関の利用が可能であった。特に学生は割安の額で提供される仕組みであった。

- **食事：**

ミュンヘン市内はチェーン店のパン屋がいたるところにある他、大学のキャンパス内で、祝日・休日を除いて学生食堂の利用が可能である。ただし、それ以外の外食は基本的に日本での2、3倍程度の費用がかかるような状況であった。

- **現地の通貨事情：**

現金とデビットカードを使用することがほとんどであった。基本的にはユーロ口座のデビットカードが便利であるが、現金は学生証へのチャージやコインランドリーでの支払いに主に用いるほか、観光の際持っておくと安心である。コインランドリーについては、デビットカードに対応していたとしても、常に小銭を携行していると、デビットカード読み取りの不具合など不測の事態にも対応が可能であった。

3 留学終了期

3.1 単位認定

- 留学先で取得し、単位認定申請をする予定の単位数：2 単位 (5 ECTS)

3.2 就職活動

修士課程への進学を希望しているため、留学の前後において特に就職活動は行っていない。

3.3 帰国後の履修計画

- 留学前に取得済みの単位数：63
- これから本学で取得予定の単位数：27
- 卒業／修了予定 (yyyy/mm)：2026/03

3.4 今後留学を考えている後輩へのメッセージ・アドバイス

例えばドイツでは役所の手続きがスムーズとはいえない状況であると一般に言われているように、留学準備期間から滞在中にかけて、予期しない問題に次々と直面することがあるかもしれませんが、そうしたことも文化の違いを目にする機会になると思います。

関連して、現地で問題に巻き込まれた際には、大学の担当者や留学の際に加入している電話相談窓口、現地の文化など事情をよく知っていそうな友人、場合によって現地警察や総領事館など、思いつく限りの人にすぐに声を発して相談することを勧めます。ミュンヘンでは特に、言語に壁があれども話を最後まで聞こうと対応をしてくれる方々が多い印象を受けました。

3.5 留学準備期間および留学中に役立った情報源

基本的には、本学での手続きは OICE または専攻事務室、先方の大学での手続きは TUM の場合渡航前の早い段階で通知される各種連絡先へ、それぞれ不明点は問い合わせをすると対応していただける。

特に TUM の担当窓口の対応について、担当者が少ないものの、私個人のケースに関して言えば勤務日一週間以内には返答をもらえるという所感である。ただし、渡航前の 1, 2 か月は、渡航に向けた準備を進める時期でありながらも TUM の授業休止期間と重複しているため、大学の履修関係の事務などが休暇に入っていることがある。履修については、早めに確認したい事柄があれば先に連絡しておくとうい。以下は、各種事務、担当窓口以外で役立った情報源のリストである。

- 先輩の留学報告書
- 同時期、前後時期の留学参加者との連絡手段
- 本学で開催されている留学フェア

私が最終的に試験を受けた科目については、いずれも教員が教材として試験の過去問題を配布してくださるほか、質問も受け付けていたので、特に学習上学生から成るコミュニティには入らなかった。